

平成29年度1学期 終業式のことば

今年の始業式あるいは入学式で、到達目標スローガン「自立 協働」、取組姿勢スローガン「夢 努力 感動」を掲げ今年度はスタートをしましたが、皆さんはどういう取組ができましたか。1学期の最終日である今日は、振り返りと2学期に向けての希望を述べたいと思います。

1学期のトピックといえば、県総体での男女総合優勝です。各部それぞれが健闘したのはもちろんですが、私の心には部単位で他の運動部を応援する姿が強く残っています。運動部が運動部を応援するだけでなく、文化部が運動部を応援する取組もありました。例えば、放送部が総体激励期間中の昼休みに、校内放送を通し応援インタビューをしたことなどです。昨日は、甲子園に向けて頑張る野球部を応援する放送をしていましたね。ひとつの課題や目標に向けてみんなが支え合って達成していく姿は、協働の精神につながる立派な姿だと思いました。

学習や授業に関してはどうだったのでしょうか。皆さんに聞いてみたいことがあります。どれでもいいので1つの授業を思い浮かべてください……。思い浮かべましたか。皆さんのイメージした教室には何人の先生がいましたか……。ここで先生とは、知識を与えてくれたり考えを深めてくれたりする人のことです。1人でしょうか、2人でしょうか、それとも……。

40人の生徒に1人の教師がいる教室を想定した場合、私が理想とするのは、40人の先生を意識できる教室です。つまり、自分を除いた40人が先生といえることです。それを可能にするのは、「対話」があること、皆さんそれぞれが「プチ先生」であることです。

「対話」とは、「対等な人間関係にある者同士が、互いに尊重し合い相互に話し合いをする」ことです。そこで、自分の知識の過不足や考え方の相違が意識され、自分の考えに修正を加えることによって考えが深まるのです。

「対話」は適切な人間関係を築く上でも大切です。ドイツに「対話が続いている限り、殴り合いは起こらない」という諺があります。「殴り合い」の代わりに「戦争」とか「いじめ」という言葉を置き換えることもできると思います。「対話」は相手を尊重し、意見を交わすものです。「対話」は相手を傷つけず自分の意見をきちんと伝えることであり、社会の中では、欠かすことのできないものです。

私たち教員は、対話を重視した授業を今、研究し研修しています。対話を交わしながらの授業が行われていることに気づいている生徒の皆さんもいると思います。

このような授業は、教員が努力するだけでは成り立ちません。先ほど言ったように、皆さんが「プチ先生」でないと成立しません。もちろん我々教師のような役割を期待しているではありません。「プチ先生」となるためには、授業への予習・準備をきちんとし、対話が成立するために、できること、わからないこと、できないこと、わかることを明確にし伝えることができるようにして授業に臨むことが必須です。授業を作っているのは自分たちでもあり、授業の充実は自分たちの準備が左右することを自覚することが大事です。

さて、1学期を終えるに当たり各学年ごとに意識してほしいこともあります。1年生は「克服」です。1学期を過ごし高校生活にも慣れた反面、日常の過ごし方や学習への取組など課題も意識できるようになってきたと思います。意識している課題を克服するために、この夏何に取り組むか考え実行してください。

2年生は「ビジョンを描く」ことです。3年生になってから取り組むでは遅いことがたくさんあります。何事も力を付けるには、日数がかかります。特に進路実現への道は、方向を定め日々すべきことを整理し着実に実行していくことにつきます。

3年生は「三昧」の日々を送ることです。「三昧」とは一つのことに関心することです。「つり三昧」「すし三昧」のように使います。部活動の大会がある人もいますが、進路実現にむけてこの夏「勉強三昧」の日々を送ったと自信をもって言えるように取り組んでください。そんな経験もしておくことも人生の糧になると思います。

学園祭の話合いや準備が始まるころです。それぞれ協働の精神をもって、創造的で活力を感じる学園祭を演出してほしいと思います。

平成29年7月20日

島根県立大社高等学校
校長 吉田 彰二